

編集後記

■編集委員 (50 音順)

出 月 康 夫
白 日 高 歩

北 島 政 樹
堤 治

北 野 正 剛
万 代 恭 嗣

小 西 文 雄
東 原 英 二

21 世紀の第 1 号となった本号の特集は、「乳腺内視鏡外科手術の最前線」である。乳房に対する内視鏡外科手術は、はじめは美容外科領域で応用され、豊胸術や減量手術を腋窩からの小さな傷で行う術式が 1990 年代の比較的早い時期より盛んに行われている。その後、乳房温存療法における腋窩郭清の preliminary な報告が欧州を中心として報告されるようになった。

一方、乳腺腫瘍に対する内視鏡外科の適応は、他の領域と同様に良性病変への報告が初めにみられる。すなわち、女性化乳房や乳腺良性腫瘍に対する小さい創からの摘出術である。その後、乳房温存療法への応用がわが国を中心として報告されるようになった。わが国でも乳腺内視鏡外科を手がける施設数はまだ限られているものの、そのレベルは世界に吾してゆけるレベルであり、本号は乳腺内視鏡外科における mile stone ともなっている。全体を通読すれば、現在の乳腺内視鏡外科の到達点を容易に理解できよう。

ところで、乳腺外科における内視鏡の意義はなんであろうか。ある著者も述べているように、「乳癌に対する内視鏡下手術は、あくまで美容的観点を重視した手術」であって必ずしも minimally invasive surgery を目指すものではないであろう。体表臓器であるが故に皮膚につく大きな傷や変形が、患者の大多数を占める女性にとって心理的な傷となりうる点で、内視鏡外科の美容性がここでは高く評価されている。定型的乳房切除術を受けてからすでに 10 年を経過したある患者が、健側とほとんど見分けのつかないきわめて精巧なシリコン性の人工乳房に出会って、100 万円を下らない価格であるにもかかわらず、これで皆と温泉にゆけると喜々として当方に披露する姿を見ても、女性の乳房に対する特別の思い入れは、男性が決して生理的に同化できない部分でもある。

ただ、技術革新に伴い、種々のエネルギー源が乳腺外科にも導入されつつある。レーザー、ラジオ波、冷凍手術や高出力超音波などが、高性能 MRI を手術の navigation として用いて、臨床応用が始まる段階にある。CCD という技術革新の導入が腹腔鏡下胆嚢摘出術という革新的手術をもたらしたように、次々に起こる技術革新によって、低侵襲手術は 10 年後には現在とはかなり形を変えて存在するといっても過言ではないとの Rattner の結論 (Surgery 1999, 125: 19-22) を引くまでもなく、今後予想される乳癌に対する内視鏡外科とその他の治療法とのせめぎ合いは、新世紀における内視鏡外科の近未来を予測するのに好適な題材にも思われる。

(万代恭嗣)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第 6 巻 第 1 号) 2001 年 2 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 (本体 2,700 円 + 税) (配送料 85 円) となります。

2001 年 年ぎめ予約購読料: 16,500 円 (配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 出月康夫)

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 (財)日本学会事務センター内

(☎ 03-5814-5801 Fax 03-5814-5820 担当: 高柳, 佐々木) <http://www.mic.med.tohoku.ac.jp/jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 5-16-9 Honkomagome Bunkyo-ku,

Tokyo, 113-8622, Japan

©2000. Printed in Japan

発 売: (株)医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 阿野, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。